

# 数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、

情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 1

## <全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

3題

### 解答形式

全問論述式。

### 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

### 出題の特徴や昨年との変更点

全問小設問によって構成されている。

理科系との共通問題がなかった。

### その他トピックス

3年連続で数列からの出題がなかった。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	微分法	数学Ⅱ	3次関数のグラフと2次関数のグラフの位置関係に関する問題。	標準
2	図形の性質	数学A	立方体に含まれる2つの四面体の体積の和の最小値。	やや難
	式と証明	数学Ⅱ	相加平均と相乗平均の大小関係。	
3	確率	数学A	数字が書かれた球を用いた確率の問題。 復元抽出と非復元抽出。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

近年、文科系では標準的な問題からやや応用的な問題の出題が続いている。まずは典型的な問題を必ず解けるようにした上で、過去問を十分に研究し、問題を正しく読み取る力、複雑な事象を整理する力、それらを答案に正確に表現する力をつけておこう。

特に、微分法と積分法、確率、図形の問題は頻出である。これらの分野は重点的に演習を積んでおくとよいだろう。